

地上の星(51)

ゴスペルホール「聖書を読む会」

特別企画(58)

「儲けんと思わば天に貸せ」※1

無欲の生涯※2 森村市左衛門物語



TOTO（衛生陶器）、INAX（内外装タイル）、日本ガイシ（送電線の絶縁体）、日本特殊陶業（自動車エンジンの点火栓）、ノリタケ（西洋磁器）という、日本一の座を守り続けて五つの陶業メーカーがあるが、それらはすべて幕末から明治・大正期に日本の経済界を牽引した森村市左衛門の創業によるものである。

しかし、その人生は苦難に満ちたものだった。7歳で母を失い、13歳で呉服商の小僧となるが、16歳の時に江戸の大火により屋敷・家財を全て失う。転居した家も、翌年の安政江戸地震に再び焼失した。日米修好通商条約締結による開港を受け、外国人の洋服、靴、鉄砲、懐中時計などを仕入れて販売を始め、戊辰戦争時に騎兵用の鞍や軍服を売ったことなどで財をなしたものの、明治維新後に手がけた養蚕や融資事業、銅山経営は次々と失敗し破産してしまう。しかし借金の返済後、アメリカで事業展開を始めてからは、業績が徐々に向上。さらに当時アメリカでは作られていなかった陶磁器に着目する。

白色硬質磁器の開発は困難を極めたが、数年をかけて完成し、その品質の高さが世界から絶賛を浴びるまでになった。

市左衛門は、出家を考えたほどの仏教徒であり、大学などに多額の寄付をして社会貢献をした篤志家であったが、転機が訪れたのは好地由太郎という、かつて脱獄囚であったが神に人生を変えられたクリスチャンに出会ったことだった。好地から洗礼を受けたのはこの世を去るわずか2年前のことであったが、喜びに溢れ、新渡戸稲造、内村鑑三、中田重治らとともに全国各地を伝道して回った。

今回は、日本を代表する大実業家でありながら、クリスチャンとしてはあまり知られて来なかった森村市左衛門の生涯をご紹介します。

※1 森村市左衛門のことは ※2 評伝(砂川幸雄著)のタイトル

記

1. 日時：2016年5月13日（金） 10:30 AM より
2. 場所：ゴスペルホール（電話 026-295-6705）
3. 講師：尾崎富雄（ゴスペルホール代表）

入場無料。どなたでも参加できます。